



## 事例1：都市部・ビルクリーニング・特定技能受入れ・登録支援機関活用なし

～アルバイトから特定技能への移行を積極的に進める。

### 受入れの背景

2014年頃からの慢性的な人手不足(コロナ禍の影響はあり、現在は落ち着いている)を背景に、媒体を使っても人が集まらなかったため、留学生を中心にアルバイトを採用、日本在住の留学生を対象にアルバイトを紹介してもらう人材紹介会社に依頼し、現在までのべ600人採用。特定技能は直接海外から採用することではなく、アルバイトからの移行がメイン。経験も培われ、人柄も見ることができると、アルバイトから特定技能へ移行するのが一番効率が良いと考えている。

他業種においてもアルバイトから特定技能への移行をしゅみ化している企業が増えている。

特定技能への移行手続きにおいては、税金や、国民年金、国民健康保険加入手続きなど日本の制度利用をするのにまったく日本人と同じ基準であるのはハードルが高すぎると思っており、これを会社でサポートしている。複数のアルバイト先の源泉徴収を集めることや、外国人材が個人で確定申告をするのは困難である。現在、手続きをした外国人材は全て特定技能への移行が出来ているが、出入国管理庁での担当者の裁量次第によるところもある。

### 受入れ条件

ビルオーナーの意向から外国人材の受入れがまだまだ難しい現場もあるが、人手不足の背景から採用を受入れる現場も増えてきている。朝から丸1日勤務が基本であるものの、午後遅めの仕事の場合もあり、空き時間が発生した場合も拘束時間として給与に反映させている。

毎年ベトナムに行って会社説明会を行っており、日本に留学をしてきた際にアルバイト先として選択してもらえるように仕事の紹介を行っている。

国籍はベトナムがメイン。その他の国籍として中国、フィリピン、ミャンマー、スリランカ。

### 定着

重要なのは、給与ももちろんだが、長く働いてもらうことが第一優先であると考えている。

現在在籍しているベトナム人社員が生活面を含めてサポートしている。この社員ももとはアルバイトから社員になっているので、経験者として新しく入った人をサポートできる体制が整っている。ベトナム人社員による、日常的なありとあらゆる相談窓口を設けている。日本人社員とのコミュニケーションを図り、日本で生活する上での違いを理解してもらうため、クリスマス会などの親睦会を年2回行っている。

### コスト

技能実習生は必ず監理団体を使わないといけないのでコストが高くなるが、特定技能は登録支援機関を使わず、会社で支援を行っており、コストメリットがある。

時に登録支援機関を活用し、その後何年かで内製化していくしくみを構築していくことが可能